

# 第6学年 外国語活動学習指導案

指導者 似内 織江  
平野 ユキ子

## I 単元名

Lesson 3 「I can swim.」(「Hi, Friends!2」文部科学省)

## II 単元の指導構想

### 1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

#### ○目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

#### ○内容

##### 1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることに関する指導事項

- (1) 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
- (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さをすること。

##### 2 日本と外国語の言語や文化について、体験的に理解を深めることに関する指導事項

- (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言語の面白さや豊かさに気付くこと。

### 2 教材について

本単元は、自分や友達ができるスポーツなどを紹介し合ったり尋ね合ったりする活動を通して、互いを分かり合ったり、コミュニケーションの素地を養ったりすることをねらいとしている単元である。子どもたちにとって、スポーツなどができるかどうかを尋ねられた場合、明確に答えられるものとする。また、「どのくらいできるか」「なぜできるようになったか」など、会話の内容を発展的に展開させていくことも容易であり、コミュニケーションが活発になることが期待できる。

本単元で扱う言語材料は、スポーツ、音楽、料理など子どもたちの生活に関する言葉を中心に扱っていく。また、単元の後半では、「help」や「save」なども扱いながら、できることを紹介する幅を広げるようにする。

### 3 子どもについて

本学級の子どもたちは、いつも外国語活動の時間を楽しみにしている。また、「外国語を使って話したい」「分かりたい」という思いが強く、積極的に歌やチャンツに参加したり、友達と会話をしたりする姿が見られる。また、自分の目標を立て、その達成に向けて目的意識をもって真剣に取り組む姿も見られる。

しかし、その一方で、特定の子どもとだけコミュニケーションを図っている子どもや、表現しようとする意欲をもてない子どもも見られる。

そこで、英語で表現する活動を通して、どの子どもにもコミュニケーションの楽しさを味わわせたり、自分のよさや頑張り、成長を実感させたりしながら、進んで表現し、他の人とかかわろうとする態度を育てたい。また、他の人のよさやアドバイスから学び、自分を高め続けようとする態度の育成も図りたい。

### 4 復興教育（3つの教育的価値）との関連

【生きる】心のあり方 ④【夢や希望の大切さ】とのかかわり

自分ができることを紹介し合いながら、自他のすばらしさを分かり合い、自信や誇りをもって夢や希望の実現に向けて前向きに生き抜こうとする態度を育てる。

## III 単元の指導計画

### 1 目標

- 積極的に自分ができることを紹介したり、できるかどうか尋ねたりする。【コミュニケーション】
- スポーツや音楽、料理などの表現に慣れ親しむ。【慣れる】
- 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く。【気付く】

## 2 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語の音声や表現に慣れる	言語や文化への気付き
①積極的に自分ができることを紹介しようとする。 ②積極的に「できること」や「できないこと」を尋ねようとする。	③スポーツや音楽、料理などの表現に慣れ親しむ。 ④できることなどの紹介や尋ね方の表現に慣れ親しむ。	⑤外国語の音声やリズムと日本語との違いに気付く。

## 3 指導計画 (本時：4 / 4時間)

欄	主な学習活動	研究とのかかわり	指導上の留意点(・)と評価(○)
1	①自分ができることや苦手なことを日本語で紹介し合う。 ②単元の活動内容を確認する。 ③紹介できるようになるために必要な活動を話し合い、活動の見通しをもつ。 ④紹介する内容を決め、話し方に言い慣れる。 ⑤単元を通じた自分の目指す姿を考える。	【見通しをもたせる場】 ・単元のゴールを見通させ、単元の最後にはどのような自分の姿を目指すのか考えさせる。	・友達やゲストティーチャー(以下：GT)に紹介する活動を通して、外国語で紹介する必然性や目的意識をもたせる。 ○積極的に自分ができることなどを紹介しようとしている。 ＜評価①＞ ○外国語の音声やリズムと日本語との違いに気付く。 ＜評価⑤＞
2	①ウォーミングアップ ②本時の活動内容を確認する。 できることやできないことの話し方に慣れよう。 ③ペアで、本時扱う言語材料を使ったコミュニケーションを行い、目指す自分の姿を考える。 ④メインアクティビティ ⑤ペアで、初めと同じ活動を行い、振り返りを行う。	【見通しをもたせる場】 ・活動内容を確認した後、ペアで本時の表現方法を見合い、聞き合うことにより、学習前の自分の実態を把握させ、本時に目指す自分の姿を見通させる。 【振り返りの場】 ・終末段階で、導入段階と同じペアで同じ言語材料を話す場を設定し、互いの頑張り振り返る。	・前時に子どもたちと話し合った内容に関する言葉の言い方に慣れ親しむ。「言葉を使って話したい」という意欲が高まるような活動を工夫する。 ○スポーツや音楽、料理などの表現に慣れ親しむ。 ＜評価③＞ ○できることなどの紹介の表現に慣れ親しむ。＜評価④＞
3	①ウォーミングアップ ②本時の活動内容を確認する。 できることやできないことの尋ね方に慣れよう。 ③紹介の仕方を聞き、ペアで話してみることで、本時に目指す自分の姿を考える。 ④メインアクティビティ ⑤ペアで、初めと同じ活動を行い、振り返りを行う。	【見通しをもたせる場】 ・活動内容を確認した後、ペアで本時の表現方法を見合い、聞き合うことにより、学習前の自分の実態を把握させ、本時に目指す自分の姿を見通させる。 【振り返りの場】 ・終末段階で、導入段階と同じペアで同じ活動を行う場を設定し、互いの頑張り振り返る。	・担任とGTとのデモンストレーションにより、会話の流れを理解させ、目指す姿の設定の参考にする。 ・より多くの子どものコミュニケーションを通して、尋ね方の話し方に慣れるようにさせたい。 ○できることなどの紹介の表現に慣れ親しむ。＜評価④＞
4 ※ 本 時	①ウォーミングアップ ②本時の活動内容を確認する。 できることなどを紹介したり尋ねたりしよう。 ③ペアで話してみることで、本時に目指す自分の姿を考える。 ④メインアクティビティ ⑤ペアで、初めと同じ活動を行い、振り返りを行う。	【見通しをもたせる場】 ・活動内容を確認した後、ペアで本時の表現方法を見合い、聞き合うことにより、学習前の自分の実態を把握させ、本時に目指す自分の姿を見通させる。 【振り返りの場】 ・終末段階で、導入段階と同じペアで同じ活動を行う場を設定し、互いの頑張りや単元の活動を通じた変容を確認し合う。	・できることを尋ねるだけではなく、どうしてできるようになったのかなど話題を広げてもよいことを伝え、コミュニケーションの活性化を図る。 ・単元の活動を通じた成長の実感をもたせたい。 ○積極的に「できること」や「できないこと」を紹介したり尋ねたりしようとする。 ＜評価②＞

#### IV 本時の指導構想

手立て I 見通しをもたせる場の設定の手立て	期待する子どもの反応 (心のつぶやき)
<p>&lt;学習の流れを見通す&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動内容を確認した後で、担任とGTとのデモンストレーションを行い、コミュニケーションの流れを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように話すのだったかなあ？</li> <li>・よし、話す内容が分かったぞ！</li> <li>・何を話すか、決めたぞ！</li> </ul>
<p>&lt;目指す自分の姿を見通す&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容を確認した後、ペアで本時の表現方法を見合い、聞き合うことにより、学習前の自分の実態を把握させ、本時に目指す自分の姿を見通させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尋ねるところが難しいので、相手に分かるように質問しよう。</li> <li>・より多くの人と話すぞ！</li> <li>・〇〇さんのような話し方ができるようにがんばるぞ！</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px;"> <b>目指す自分の姿 に近づこうとする 目的意識</b> </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px;"> <p>&lt;メインアクティビティ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり聞くぞ。・伝わるように話そう。</li> <li>・友達のことが分かって楽しい。</li> </ul> </div>	
手立て 2 振り返り活動	期待する子どもの反応 (心のつぶやき)
<p>&lt;振り返り方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入段階で活動したペアで初めと同じ活動を行い、互いの変容を振り返るようにさせる。</li> <li>・自己評価と相手による他者評価を取り入れ、コミュニケーションの高まりを実感させたり、アドバイスを送り高め合う関係性を築いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の活動を通して、友達はどうのようことをがんばったかなあ？</li> <li>・初めの時よりはもっと伝わるように友達に話せるようにがんばろう。</li> </ul>
<p>&lt;振り返る視点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価は、導入段階で設定した目指す自分の姿を振り返る。その際、本時の頑張りだけではなく、単元を通じた自分の成長も触れるようにさせたい。</li> <li>・ペアの相手による他者評価では、記述内容に対する感想だけではなく、本時や単元の導入段階と比較した友達の頑張りや変容の様子を記述させたい。(さらにこのようなところを頑張るとよいのではないかと、という視点で友達に教えることもよいことにする。)</li> </ul>	<p>&lt;自己評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は自身がなかったけれど、いろいろな人と話すことで自信をもってしっかりと話せるようになった。</li> <li>・うまく言葉がでなくて、相手に伝えることができなかったなあ。</li> </ul> <p>&lt;他者評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自信がないようだけれど、前よりもずっと表情よく話せるようになったよ。</li> <li>・次の活動では、相手を見たり笑顔で話したりすると、もっとよくなるのではないかなあ？</li> </ul>

#### V 本時の指導計画

##### 1 目標

- 積極的に他の人に自分ができることなどを紹介し合ったり、尋ね合ったりしようとする態度を育てる。

##### 2 評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

積極的に「できること」や「できないこと」を紹介したり尋ねたりしようとする。

特定の相手とのコミュニケーションなど幅が広がらない子どもには、担任やGTと話すことを促す。また、積極的な子どもには、参加者へ話したりより多くの友達と活動したりすることを促す。

3 展開

段階	主な学習活動	期待する子どもの反応	時間	研究にかかわる手立て	留意点（・）と評価（◆）
導入	<p>1 あいさつとウォーミングアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツ ・歌</li> </ul> <p>2 本時学習内容の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>できることなどを紹介したり尋ねたりしよう。</p> </div> <p>3 デモンストレーション</p> <p>(例)</p> <p>A: Can you swim ?</p> <p>B: Yes, I can .</p> <p>I can swim.</p> <p>A: Me, too.</p> <p>B: Can you cook?</p> <p>A: No, I can' t .</p> <p>I can sing.</p> <p>B: Wow, great !</p> <p>4 目指す自分の姿の設定</p>	<p>・どのように話すのだったかなあ？</p> <p>・よし、話す内容が分かったぞ！</p> <p>・今日は、相手に分かるように質問しよう。</p> <p>・より多くの人と話すぞ！</p> <p>・〇〇さんのように話せるようにがんばるぞ！</p>	10	<p>&lt;学習の流れを見通す&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任とGTとのデモンストレーションを行い、コミュニケーションの流れを確認する。</li> </ul> <p>&lt;目指す自分の姿を見通す&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで見合い、聞き合うことで、今の自分の実態を把握させ、本時に目指す自分の姿を見通させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テンポよく進めることで、楽しい雰囲気作りに努める。</li> <li>・前時までの活動内容や掲示によって、本時の活動内容を確認する。</li> <li>・音声だけではなく、子どもの実態に応じて、絵カードなども活用し、マッチングさせる。</li> <li>・担任とGTは、子ども達の目指す姿を示す。</li> <li>・単元を通した評価プリントに記述させる。これまでの自分の成果を踏まえて、設定させたい。</li> </ul>
展開	<p>5 メインアクティビティ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できることを紹介したり、尋ねたりする。</li> <li>・紹介する活動を前半と後半に分ける。前半は、友達同士で活動する。後半は、担任やGT、参観の先生方へと範囲を広げて活動する。また、自分の目指す姿を再確認してよりよいコミュニケーションを目指す。</li> </ul>	<p>(例)</p> <p>A: Can you swim ?</p> <p>B: Yes, I can .</p> <p>I can swim.</p> <p>A: Me, too.</p> <p>B: Can you cook?</p> <p>A: No, I can' t .</p> <p>I can sing.</p> <p>B: Wow, great !</p>	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・できることの内容を広げ、子どもが知りたい表現 (help , save) などをGTが紹介する。</li> <li>・できるようになった理由など、話題を広げてもよいことを伝え、コミュニケーションの活性化を図る。</li> <li>・GTは、子どもの活動を適に評価する。</li> <li>◆積極的に「できること」や「できないこと」を紹介したり尋ねたりしようとする。</li> </ul>
終末	<p>6 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで聞き合う。</li> <li>・カードに記述する。</li> </ul> <p>7 GTの評価</p> <p>8 あいさつ</p>	<p>&lt;自己評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもってしっかりと話せるようになった。</li> <li>・うまく相手に伝えられなかったなあ。次は、もっと上手に伝えたいなあ。</li> <li>・たくさんの人と話すことができてうれしかったな。</li> </ul> <p>&lt;他者評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前よりもずっと表情よく話せるようになったよ。</li> <li>・相手を見たり笑顔で話したりすると、もっとよくなるのではないかなあ？</li> </ul>	15	<p>&lt;自他の活動を振り返る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入段階で活動したペアで初めと同じ活動を行い、互いの変容を振り返る。</li> <li>・自己評価と相手による他者評価を取り入れ、コミュニケーションの高まりを実感させたり、アドバイスを送り高め合う関係性を築いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入段階で設定した自分の姿を振り返る。単元を通した自分の成長も触れさせたい。</li> <li>・ペアによる他者評価では、導入段階と比較した友達の頑張りや変容の様子を記述させたい。</li> <li>・GTは子どもたちの頑張りや変容の様子を位置付ける。</li> </ul>